

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2026年6月18日
【会社名】	日東紡績株式会社
【英訳名】	NITTO BOSEKI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表執行役社長 林 寿 信
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	福島県福島市郷野目字東1番地
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表執行役社長 林 寿信は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の改訂について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である2026年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社並びに連結子会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定いたしました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、財務報告に対する金額的及び質的影響並びにその発生可能性の重要性を考慮して決定しており、会社及び連結子会社12社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定いたしました。なお、連結子会社5社については、金額的及び質的影響並びにその発生可能性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めておりません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、当社グループは複数事業を営む製造業の連結グループであり、経営管理上各事業拠点における売上高が事業活動の成長を計る指標として重視されていることと連結グループの中には外部売上が僅少な生産子会社も含まれていることから、事業拠点の重要性を判断する指標として売上高及び売上原価が適切であると判断し、全社的な内部統制が良好であることを踏まえ、各事業拠点の前連結会計年度の売上高及び売上原価（連結会社間取引消去後）の金額を勘定科目毎に合算し、前連結会計年度の連結売上高及び連結売上原価のそれぞれおおむね3分の2程度に達する当社の3事業及び連結子会社6社を「重要な事業拠点」といたしました。当社グループは主として製造業を営んでおり、製造に必要な原料等を仕入れ、製品に加工し、市況の状況を踏まえて適正数量を在庫として保有し、顧客に販売するビジネスを展開していることから、選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売上原価、売掛金、棚卸資産及び有形固定資産に係る業務プロセスを評価の対象といたしました。さらに、重要な虚偽記載の発生可能性が高い見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスである、固定資産減損プロセス及び税効果プロセス等を財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価の対象に追加しております。また同様に、一部の重要な事業拠点を対象に修繕引当金プロセスを重要な虚偽記載の発生可能性が高い見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスとして評価の対象に追加しております。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

4 【付記事項】

該当事項はありません。

5 【特記事項】

該当事項はありません。